

各 位

平成 20 年 10 月 15 日
 東京都港区六本木六丁目 1 番 20 号
 株式会社ワイズテーブルコーポレーション
 代表取締役社長 金山 精三郎
 (コード番号: 2798 東証マザーズ)
 問い合わせ先 財務経理担当執行役員 吉田 茂
 (03-5412-0065)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 20 年 4 月 14 日に公表しました平成 21 年 2 月期 (平成 20 年 3 月 1 日 ~ 平成 21 年 2 月 28 日) の中間期及び通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 個別業績予想の修正

(1) 中間会計期間(平成 20 年 3 月 1 日 ~ 平成 20 年 8 月 31 日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり 予想中間 純利益
前回発表予想(A)	3,583	137	124	62	円 銭 2,388 91
今回修正予想(B)	3,428	74	10	3	円 銭 144 47
増減額(B - A)	155	212	114	66	
増減率(%)	4.3		91.7		
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 2 月期中間)	3,006	75	76	24	円 銭 931 94

(2) 通期(平成 20 年 3 月 1 日 ~ 平成 21 年 2 月 28 日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 予想当期 純利益
前回発表予想(A)	7,293	301	303	151	円 銭 5,826 01
今回修正予想(B)	6,983	16	116	95	円 銭 3,658 24
増減額(B - A)	309	285	187	56	
増減率(%)	4.2	94.6	61.7	37.0	
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 2 月期通期)	6,444	219	243	15	円 銭 583 64

2. 連結業績予想の修正

(1) 中間連結会計期間(平成20年3月1日~平成20年8月31日) (単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり 予想中間 純利益
前回発表予想(A)	6,768	257	231	116	円 銭 4,487 33
今回修正予想(B)	6,688	30	23	70	円 銭 2,682 49
増減額(B-A)	79	227	208	186	
増減率(%)	1.2	88.3	90.0		
(ご参考)前期実績 (平成20年2月期中間)	5,787	269	255	63	円 銭 2,441 02

(2) 通期(平成20年3月1日~平成21年2月28日) (単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 予想当期 純利益
前回発表予想(A)	14,371	590	570	265	円 銭 10,187 18
今回修正予想(B)	14,048	340	336	106	円 銭 4,077 19
増減額(B-A)	323	249	234	158	
増減率(%)	2.3	42.3	41.1	59.8	
(ご参考)前期実績 (平成20年2月期通期)	12,268	491	485	232	円 銭 8,929 84

3. 修正の理由

<個別>

中間期(平成20年3月1日~平成20年8月31日)

売上高は3,428百万円(前回予想比4.3%減少)、営業損失は74百万円(前回予想 営業利益137百万円)、経常利益は10百万円(前回予想比91.7%減少)、中間純損失は3百万円(前回予想 中間純利益62百万円)となる見込みであります。

個別の中間業績につきましては、一部既存店売上の前年実績割れに伴う予算未達の影響、平成20年3月にリニューアルオープンしました「八坂通りAn京割烹」の業績が予想を下回ったことに加え、出店コストの負担増加等の影響から営業損失74百万円の計上を見込んでおります。また当中間期では営業損失が見込まれるものの子会社からの受取配当金74百万円の計上等から経常利益は100百万円を見込んでおり、法人税等を控除した中間純損失は3百万円となる見込みであります。

通期(平成20年3月1日~平成21年2月28日)

売上高は6,983百万円(前回予想比4.2%減少)、営業利益は16百万円(前回予想比94.6%減少)、

経常利益は116百万円（前回予想比61.7%減少）、当期純利益は95百万円（前回予想比37.0%減少）となる見込みであります。

通期においては、当中間期の業績予想及び下期以降の当社を取り巻く外部環境を考慮し、業績予想を修正するものであります。当社個別の損益は、例年下期12月度の売上・利益をピークとして推移するため下期は上期に比して堅調な売上・利益が見込まれる一方で、当上期の既存店の状況等を加味して下期予算の見直しを行なった結果、個別業績予想を修正するものであります。

< 連結 >

中間期（平成 20 年 3 月 1 日～平成 20 年 8 月 31 日）

売上高は6,688百万円（前回予想比1.2%減少）、営業利益は30百万円（前回予想比88.3%減少）、経常利益は23百万円（前回予想比90.0%減少）、中間純損失は70百万円（前回予想 中間純利益116百万円）となる見込みであります。

連結の中間業績につきましては、「PIZZA SALVATORE CUOMO」を中心に展開する、当社の子会社であります(株)SALVATORE CUOMO JAPANにおいて予算を上回ることが予想されるものの、当社個別の要因に加え、中華レストランを運営している同じく当社子会社であります(株)CRYSTAL JADE JAPANの予算未達等による影響を考慮し、営業利益は30百万円、経常利益は23百万円の計上を見込んでおります。なお、税引前中間純利益から法人税等101百万円を控除した中間純損失は70百万円となる見込みであります。

通期（平成 20 年 3 月 1 日～平成 21 年 2 月 28 日）

売上高は14,048百万円（前回予想比2.3%減少）、営業利益は340百万円（前回予想比42.3%減少）、経常利益は336百万円（前回予想比41.1%減少）、当期純利益は106百万円（前回予想比59.8%減少）となる見込みであります。

通期においては、当中間期の業績予想及び下期以降の当社グループを取り巻く外部環境を考慮し、業績予想を修正するものであります。当社子会社(株)SALVATORE CUOMO JAPANの新規出店状況や既存店の状況及び上期の損益実績を踏まえ同社の下期予算を上方修正するものの、当社個別及び(株)CRYSTAL JADE JAPANの減収減益要因を反映させた結果、連結業績予想を修正するものであります。

以 上